



# 六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.73  
六甲山系のカタツムリ  
／大原 健司  
2009年4月発行

## 第13回テーマ： 六甲山系のカタツムリ

### 講演内容

- わたしとカタツムリのかかわり
- カタツムリの起源と誕生
- 六甲山系を模式産地とする  
カタツムリ

実施日：平成21年4月18日（土）  
午後1時～3時45分  
場 所：六甲山自然保護センター



講師：大原 健司さん  
プロフィール

1946年生まれ大阪市出身。甲南大学理学部卒業後、民間企業勤務。貝類学者・黒田徳米氏に師事して貝類を研究。1999年西宮市貝類館設立時に民間企業を退職し学術研究員となる。



西宮市貝類館

### ヤマザクラとタムシバの歓迎

平成21年度最初の市民セミナーは5ヶ月ぶりに六甲山自然保護センターで開催しました。山上部は快晴で、ヤマザクラのピンクとタムシバの白などが目を和ませてくれ、多くのハイキング客も見かけました。午前中の環境整備のボランティア活動に12名、市民セミナーには22名が集まりました。

### ライフワークを愉快地語る大原さん

今回の講師は西宮市貝類館の研究者・大原健司さんです。「マチカネワニを発見したボンで有名です」と自己紹介され、貝類研究家の黒田徳米（とくべい）氏との出会い、そして西宮市貝類館に勤められた経緯を語られました。

講演は10数億年前の大気の生成、4億年前以降にカタツムリが誕生したという壮大なお話。随所にジョークを挟んで中国殷王朝にまつわる貝貨で締めくくられ、聞き手は拍手喝采でした。化石の発見から現在の貝類研究につながった大原さんのライフワークに感銘を受けました。



貝を含む漢字「貧」

### カタツムリは陸に上がった貝

講演内容の前半は「カタツムリの起源と誕生」です。ストロマトライトが酸素のある大気をつくり、4億年前にオゾン層ができ、生き物が海から陸に上がる条件ができた。貝が陸に上がってカタツムリになったこと、1億年変化していない形態や特徴のある生態・生息環境など、意外性に富んだカタツムリへの関心をかき立てられました。

後半は「六甲山系を模式産地とするカタツムリ」

で、花崗岩の酸性土壌で原生林が切られた六甲山はカタツムリにとって良い環境ではないと説明されました。条件の異なる布引や保久良山にはカタツムリがいます。

ギュウリキマイマイなど、神戸開港時代の外国人が発見して報告し、模式産地が神戸になっているカタツムリなどが5～6種います。

カタツムリは外観の形態をほとんど変えずに、様々な地域で順応して1億年以上生き延びています。その一方、移動性が低いので、大きな木を1本切っただけで死ぬような影響を受けます。大原さんは、カタツムリは環境調査の指標動物としても大切にしたい、と強調されました。



カタツムリの標本

### カタツムリは環境指標動物

六甲山でカタツムリを見ることが減ったという声も聞きます。今回は棲息環境としても良くないことを知り、カタツムリを通じて環境を考えたいと思います。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

### 参加の感想 久門田 充さん

今回は、貝の研究者のお話を伺えるという事で、このセミナーを心待ちにしていました。

保育士の私にとってカタツムリは保育の必需品です。また3年前より調査を始めた二つ池で、小さな二枚貝を見つけていました。

非常にわかりやすい内容で、オオケマイマイは成長すると殻の周囲の毛がなくなる事や、小さな二枚貝は、ドブシジミであることを教えていただき、貴重なカタツムリの標本まで拝見出来て参加したカイがありました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会  
協力：兵庫県立人と自然の博物館  
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】  
コベルコ環境保全基金、灘区役所  
公益信託自然保護ボランティアファンド、  
公益信託 TaKaRa ハーモニストファンド